【令和7年度鎌倉市男女共同参画推進委員会会議録】

- 1 日 時：令和7年（2025年）8月18日（月）
午前10時00分から午前11時30分まで
- 2 場 所：鎌倉市役所本庁舎2階議会第一委員会室
- 3 出席者：【委員】佐藤委員長、鈴木副委員長、菊池委員、高橋委員
【事務局】共生共創部能條部長（途中退席）、共生共創部次長小川次長（兼地域共生課長）、地域共生課新井課長補佐（兼人権・男女共同参画担当担当係長）

※ 傍聴者 1名

4 議題

- (1) かまくらジェンダー平等プラン【鎌倉市男女共同参画計画（第3次）】改訂について
 - ア かまくらジェンダー平等プラン【鎌倉市男女共同参画計画（第3次）】改訂について
 - イ かまくらジェンダー平等プラン骨子（体系図及び女性支援法市町村計画部分抜粋）
- (2) 令和6年度鎌倉市男女共同参画年次報告について
- (3) 審議会等女性委員登用状況調査結果について

5 配付資料

鎌倉市男女共同参画推進委員会委員名簿

- (1) 【資料1】かまくらジェンダー平等プラン【鎌倉市男女共同参画計画（第3次）】改訂について
- (2) 【資料2】かまくらジェンダー平等プラン骨子（体系図及び女性支援法市町村計画部分抜粋）
- (3) 【資料3】令和6年度鎌倉市男女共同参画年次報告書
- (4) 【資料4】審議会等女性委員登用状況調査結果
- (5) 参考資料 かまくらジェンダー平等プラン【鎌倉市男女共同参画計画（第3次）】現行プラン

6 会議の概要

共生共創部挨拶、出席委員の確認、諮問（かまくらジェンダープラン（鎌倉市男女共同参画計画【第3次】）の改訂について）、傍聴者の確認取扱い、会議録等の取扱いについて確認した後、議案の審議に入った。

7 議事

議題1

委員長：それでは議事を進行いたします。1、鎌倉ジェンダー平等プラン【鎌倉市男女共同

参画計画第3次】改訂について、(1)鎌倉ジェンダー平等プラン【鎌倉市男女共同参画計画第3次】改訂について、事務局から御説明をお願いいたします。

事務局：資料1を御覧ください。「1計画期間」について、色つきの部分につきまして、現在の鎌倉ジェンダー平等プランが鎌倉市男女共同参画計画第3次として、令和4年から令和13年までの計画期間となっています。下の※の部分になりますが、「概ね5年後に見直しますが、状況の変化に応じて柔軟に対応します」と記載をしています。5年後は令和9年度となりますが、「2見直しの1年前倒しについて」に記載のある通り、令和6年4月に施行されました困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の市町村計画を包含して改訂する予定です。

「3改定の基本的な考え方」は図とともに説明を記載しておりますが、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律に基づく市町村計画の策定は努力義務とされています。また、同法に基づく市町村基本計画は、政策的に関連の深い他の計画と一体のものとして策定することができるため、ジェンダー平等プランの改訂を図の矢印の通り1年前倒しいたしまして、令和8年度に向け、女性支援法が求める要素を、ジェンダー平等プランに盛り込み、一体として改訂を行いたい。また、各課の実質的な取組を記載しています推進計画についても、後期推進計画を今年度中に策定し、令和8年度から6年間の計画期間としたいと考えています。(2)については、関連計画の内容を反映し改訂を行いたい旨記載しています。

「4今後のスケジュール」については記載の通りですが、本委員会の開催を年度内にあと2回予定しております。その他、議会総務常任委員会、パブリックコメント、庁内での意見照会などを予定しております。資料1につきましては以上となります。

委員長：ただいまの御説明につきまして、御質問御意見ををお願いいたします。

委員：計画の前倒しや、女性支援法についても記載するというのは、県内の市でもなかなかない、良い取り組みであると考えます。

委員長：では次に議題1(2)かまくらジェンダー平等プラン骨子について事務局から御説明をお願いいたします。

事務局：資料2を御覧ください。ジェンダー平等プラン改定版骨子として、体系図と女性支援法部分を抜粋しました。タイトルにつきまして、これまで「かまくらジェンダー平等プラン」としていましたが、「かまくらジェンダー平等・女性支援プラン」と変更する旨検討しています。こちらは、ジェンダー平等というタイトルだけでは暴力や困難に遭われた女性の支援のための計画を含んでいるという部分が見えにくいという印象があることから、タイトルからも女性支援の計画であることがわかるよう、変更案を提示しました。しかしプランの策定時に本委員会でジェンダー平等、性別役割という部分を重視して名称もご検討いただいたという経緯もございます。そのため名称を変更することについても、委員の皆様からご意見をいただければと考えております。

まずそれでは資料2に戻りまして、1ページ第1章、3プランの位置づけについて。プランの位置づけの一番下の◇印に、「本プランは困難な問題を抱える女性の支援に関する法律第8条第3項に定める市町村計画を包含して策定します」と追記し、表にも、この法律に基づくものであるということを記載しました。

2 ページ「5 プラン策定の背景」の現状と課題について。「16 困難な問題を抱える状況」図表 35「困難への対応状況」をご覧ください。こちらは神奈川県の困難を抱える女性に係る実態調査からの抜粋になります。図によりますと、DV や生活困窮の他、困難を抱えた状況であっても、何もしていない、自分で何とかしようとしているという答えの割合が突出しています。すなわち、相談や支援に繋がる割合が低い状態であると言えます。次のページの図表 36 で、同じ調査で抱える困難の数を表しています。8 割以上の方が 2 種類以上の困難を抱えている状況であり、この二つの評価でいいますと、女性が抱える困難というのは、多様化し複合化しているものの、その大半は相談や支援に繋がっていないという現状が明らかになっています。

次のページ、第 2 章「プランの内容」を御覧ください。後ほど体系図でご説明いたしますが、女性支援法部分につきましては、目標 6 として追加いたしました。女性が抱える困難は複雑化複合化し、ニーズが多様化していながらも、相談せず 1 人で抱え込むことが多い状況であること、このような状況を解決するためには相談窓口の周知や、様々な分野の関係者が、行政や民間という垣根を乗り越え包括的に支援していくことが必要ということでこちらの目標を掲げました。

次のページは体系図となります。今説明した内容について、体系図に落としたものが 5 ページ 6 ページになります。目標 6 を追加という形でお示しております。

目標を実現するための方針といたしましては、「1 安心して相談できる体制の充実」、「2 関係機関と連携協働した支援体制の充実」、「3 自分らしく暮らすための自立支援の促進」の 3 点を取り組み方針といたしました。

以下は施策となり、7 ページ以降で説明させていただきます。

続きまして 7 ページをご覧ください。施策の展開といたしまして、先ほどの方針 1 ～ 3 に基づきましてそれぞれ施策を記入しています。「方針 1 安心して相談できる体制の充実」につきましては、女性相談の充実と包括的支援部分が、「目標 V 配偶者等に対する暴力の根絶」の施策に重なるため再掲としています。「2 支援のための人材育成」は、法においても女性相談支援員の資質向上が重視されているため、記載しました。

「方針 2 関係機関と連携した支援体制の充実」の、施策として、「(1) 関係機関との連携協働促進の体制のための体制づくり」ですが、こちらも法において、民間団体はじめ、関係機関との連携体制が重視されているために記載しました。

「方針 3 自分らしく暮らすための自立支援の促進」、「(1) 一時保護と自立体制支援の体制づくり」についても目標 V と重なるため再掲としています。「(2) 本人の意思に寄り添った自立支援」については、法の概念に関わる部分となるため記載をしています。「(3) 被害に遭われた方への支援体制づくり」については令和 7 年 4 月から鎌倉市で犯罪被害者支援条例が施行されたことに伴い、対象者のうち犯罪被害者の方に寄り添い支援することを施策として記載をいたしました。説明は以上となります。

委員長：ただいまの御説明についてご質問ご意見いただきます。

委員：第 2 回、3 回の委員会でも内容を詰めていく方向性でしょうか。

事務局：はい。

委員：4 ページの目標について、法律には実際に困難を抱えている方だけでなく、そのおそれのある女性も対象になっている。その観点からすると若年層への対応について記載する必要があるというのが1点です。あとはこの法律の趣旨でも、困難な問題が複雑化複合化しており支援ニーズも多様化しているというのがあるので相談に対応する自治体側の多様なチャンネルが必要であろうというところで、そこについてのコメントが必要というのが2点目の意見になります。

次に6 ページで新しく追加したところの1、2、3について、「関係機関との連携」について、具体的には7 ページの「方針2 関係機関と連携した支援体制の充実」「(1) 関係機関との連携・協働促進のための体制づくり」について、これが重要なのはその通りだが、具体的には庁内のどのネットワークを想定しているのか、今後書き込む必要があると思うが、現状考えているものがあれば教えてください。要対協などもありますし、配偶者暴力防止のネットワークもあると思うが、一番問題になっているのが守秘義務の関係で、ネットワークの接続部分が問題提起されているがその点についての考え方というか、どういうネットワークが現実にあってどこと繋ごうとしているのかというところが、今後課題としてあるのか。

委員長：それでは今のご発言について御説明をお願いいたします。

事務局：庁内の連携体制につきましては、先週行われましたが庁内関係部局で構成されている人権男女共同参画施策推進連絡会という庁内連絡会で連携を取ることとなります。また、支援調整会議については要綱を制定したところです。あと庁内では連携体制は会議体だけではなくて日々の業務の中で日常的には行っていることですので、今言えるのはそのあたりかなとは思いますが。

事務局：補足させていただくと、事務的な会議は実際にありますが、実務者レベルではかなり連携をとっています。地域共生課では女性相談を受けていますが、生活が苦しいということであれば生活保護の相談とか、あとお子さんがいればこども家庭相談課などと連携して相談をするようにしています。個別の事例をご紹介しますと、特定の相談員以外とのお話が難しい方については、その特定の相談員が窓口になって話を聞くことで、相談者に安心してお話をしていただけるケースもあります。市役所の中だけでなく警察や児童相談所などとケースに応じて、広いネットワークで情報共有して課題を解決する自立支援に向けて連携する体制は整っていると考えています。

委員：各ネットワークの制度設計と現場との関係について、各現場でこの制度を使っているというのが浸透するといいなと思います。よくわからない状態で情報交換を行うことや、逆に制度を理解していなくて情報交換ができないという現場の人たちの話を聞いているので、これは要対協の枠組み、連絡会の枠組みという、制度設計と運用現場がリンクするとか循環するような啓発なのか、教育や連絡会などの仕組みがあると、より活きるのかなと思って聞いてみました。

委員：庁内連携がすごく大事だと思っており、今かなり連携されていらっしゃるということで、女性相談から各課への連携はあるとのことだが、逆に各課から女性相談への連携を依頼されることはありますか。

事務局：普段から依頼されることはあります。

委員：加えてあと警察ですけれども、この間のあの痛ましい川崎でのストーカー事件では、

何度も警察に相談に行ったにも関わらず、女性相談員の紹介は一切なかったという
ことで、警察の連携、医療機関の連携などが加わるとかなり体制が整うと思います。

事務局：先日は警察経由でシェルターへの入所のご相談があり、警察に出向きました。結局
その方はシェルターに入ることはなかったですけれども、そのときに生活安全課の
方とかなり情報交換をしまっていました。少し認識が違う部分もありましたが、共有
させていただき、これから密にできたらいいと考えています。

事務局：補足させていただきます。今年度、4月から犯罪被害者支援条例を施行し、警察OB
の方を相談員として1人採用しております。実際犯罪被害者の相談はまだ件数が多
くないので、庁舎内で警察との連携が必要になるような案件ですとか、カスタマーハ
ラスメントや暴力的な方や暴言を吐いている方などへの対応も各課窓口と連携して
対応しております。また、犯罪被害者支援条例の施行に伴いまして大船警察署と鎌倉
警察署と協定を結び、風通しをよくすることで犯罪被害者支援だけでなくその未然
防止、DV被害から守るなどの動きも警察と連携してやっているケースが出てきてい
ます。

委員：内部で連携させていただく立場でおりますので、やはり守秘義務というところをキ
ーワードに重要なところで確認しながら有用な連携ができるといいなと日々思っ
ています。会議体で大きく捉えて会議を持っていただく部分と、日常、各個別のケー
スで法律を守りながら連携をしていくってところがスムーズにいくようにしてい
ただけたらなと思っております。

委員：犯罪被害者支援条例を作られたということだが、所管部署はどこになりますか。
犯罪被害者支援条例を作ったが、所管課では啓発だけやっているってところを
見ているので、啓発だけでなく実務と繋げる役割のところにも繋げてもらえるとい
いなと思っております。

事務局：地域共生課が所管です。くらしと福祉の相談担当という相談窓口を担当している
ところで相談を受けており、啓発も含めて地域共生課で担当してやっています。

委員：8ページ(1)一時保護について、女性相談から県の窓口へと繋いでいく形になっ
ていますか。担当者は何人いるのでしょうか。

事務局：2人です。

委員：場合によっては警察や法律事務所と繋いでいくのでしょうか。

事務局：法律が必要な場合は法律相談や法テラスを御案内しています。

委員長：私から一つ申し上げます。名称変更についての検討ということでしたが、資料2の
6ページに追加した目標VIに「困難な問題を抱える女性への支援の推進」と挙げてい
ます。ジェンダー平等というところと、女性への支援という表現が、2つの、ある意
味少し矛盾する印象を受ける。目標V「配偶者等に対する暴力の根絶」の方針2「DV
被害者等への相談体制の整備・充実」の施策「(2) 男性被害者のための相談体制づ
くり」との兼ね合いをやはりうまく説明する必要があると思います。ジェンダー平等
というところで平等な計画を推進してきた中で、改めてここで困難な問題を抱える
女性への支援が現実には必要であること、あるいは男性に比して女性の方の件数が
非常に多いということをどこかでやはり明確に表現していかないと、このタイトル
そのものに矛盾が含まれている印象が残るのではないかなと懸念しています。

事務局：令和3年度にジェンダー平等プランを策定した際に、委員長に検討していただいた部分であり、十分御検討いただいていた経緯があるなかであえて女性支援というところをタイトルにプラスするということへ御意見をいただければと思います。

委員長：このタイトルの変更についてそれぞれ率直な御意見を頂けたらと思います。

委員：女性支援と言うと必ず男性被害者についての議論が出てきますが、今おっしゃったように、非対称性の現状やまだまだ統計的にも女性が被害に遭う率が多いことなど、まさに今回女性支援法はそこに注目しているわけで、その非対称性のことからすると、あえて女性支援プランという名称を入れるということは賛成です。ただやはり説明が必要になってくると思う。それは今までも配偶者暴力のところで男性被害者支援っていうところは入れてたっていうのはジェンダー平等っていう中には含まれている話なのでその説明というか、今までのところもカバーしていて男性女性に対しての平等を目指してやってきたプランに、あえて今回法律が加わった部分として、女性支援のところ注目して対応とか、困難さがやはりすごく残っているというところから、あえて注視して規定したっていうのは必然になるのかなと私としては理解しております。それがどう受け入れられるかという意味だとやはりデータ等をきちんと用意しておかないといけないのかなと思います。

委員：タイトルの追加は賛成なんですけど、やはり誤解というか、本来の意味であればその生物学的な女性を支援することが社会的なジェンダー平等に繋がるといった意味で矛盾してないんですけども、誤解というか、ぱっと見てこれは自分のための法律じゃない人と思われる方も多いかもしれない。本来であれば、全ての方のための法律であるのに、賛成だがやはり先生方おっしゃるように、説明がわかりやすくかつ、必ず近くにある方がいいかなというのは感じています。

委員：前回計画を個別に作るのか包含していくのかという話があったかと思うんですが皆様おっしゃっているのは、内包するところでの流れとしては、矛盾したものではないんですけども、ジェンダー平等を目指すために必要な部分であるというところの、今回の法律の趣旨と、今回ここに盛り込む内容について、どうしてここにわざわざ入れなければいけないのかっていうところを思いというか、そういうところを先生方とか事務局の方が思ってたっていう、ここにこういう名称をつけるに至ったというところを記載していただければ、皆様の賛同を得やすいのではないかなと思います。

委員長：そのほかに御意見はありますか。

委員：2ページのこの図表35データは、女性だけに聞いていますか。男性だったらどうかというデータはありますか。

事務局：県の計画のデータとして掲載されていなかったのでおそらく男性のデータは取っていないと思われます。

委員：その辺の比較が出てくるといいかなとか、でもそうすると逆に男性の方がもっと相談しないとかいうデータになってくると、またちょっと違った形になるという面もあるかなと思いました。

委員長：皆さんからお話があったようにタイトル変更はポジティブに捉え、そのいろいろなイメージというか、誤解を防ぐような形も、例えば説明文にアスタリスクを入れる

など、そういったことでもいいのかなと思うので事務局でご検討いただけますか。

議題 2

委員長：議題「令和 6 年度鎌倉市男女共同参画年次報告について」事務局から説明をお願いします。

事務局：資料 3 をご覧ください。1 ページ、鎌倉市男女共同参画推進条例第 9 条に基づき、令和 6 年度中に実施した男女共同参画の推進に係る施策の状況について取りまとめた報告書です。こちらはかまくらジェンダー平等プラン前期推進計画に定めた取組内容についての、令和 6 年度の取組状況評価について、目標に沿って整理をしたものです。

評価結果の主なものを説明いたします。

4 ページからは、各施策に基づく取組内容に対する令和 6 年度の各課の取組状況について、事業評価と今後の課題をまとめています。

表の左から、目標に対する各方針に紐づく施策、前記推進計画に基づく取組内容、担当課、令和 6 年度の取組状況、評価（A 十分達成した、B おおむね実施できたが不十分な点が少しある、C 実施したが不十分な点が多くまだ努力を要する、D 実施方法を含め改善が必要である、又はほとんど実施できなかった）、事業評価の理由と今後の課題が記載しています。

主な取組について説明いたします。

まず、4 ページから 6 ページにかけて、「目標 I ジェンダー平等社会実現への理解促進」についてです。

6 ページ「方針 2 多様な性の尊重」について、取組内容「差別や偏見をなくすための啓発活動や研修を実施します」の取組状況一番上地域共生課の取組ですが、性的マイノリティの団体から講師を迎えて研修を実施し、自分や周りの人の性を大切にする取組について理解を深め、好評をいただきました。

次に施策「性的マイノリティの人々が自分らしく生活できるよう取組を推進します」の取組内容の上から 2 番目「市の申請書等の不必要な性別欄を廃止します」について、3 年ほど前に性別欄についての調査を行い、国等で書式が定まっているもの以外ほぼ性別欄を廃止したと認識していましたが、3 年経過していることもあり、新事業等に使用する申請書について改めて全庁的に呼びかけていく必要があると認識をしています。

次に、7 ページから 9 ページにかけて「目標 II 意思決定の場でのジェンダー平等の推進」についてです。

9 ページを御覧ください。「方針 2 政策・方針決定過程への女性の参画」「(1) 政策・方針決定過程への女性の参画」ですが、こちらの内容は、議題 3 審議会等女性委員登用状況調査結果と内容がリンクしていますので、一括して説明いたします。資料 4 審議会等女性委員登用状況調査結果を御覧ください。

鎌倉市における審議会等への女性委員の登用推進要綱第 3 条では、審議会等においては、「男女いずれか一方の数が総数の 10 分の 4 未満としないこと」を目標値

として定めています。

令和7年4月1日現在、これを満たした審議会は72のうち52で、目標達成率は72.2%、また、女性委員は、委員数700人に対し309人、女性登用率は44.1%と前年度からそれぞれ3ポイントと2.1ポイントの増加となっています。

この背景には、令和4年7月に「鎌倉市における審議会等への女性委員の登用推進要綱」を改正し、各部の目標達成率を把握するなど、推進体制をより強化したことによるものです。また、市長マニフェストにも「令和6年度までに全ての審議会において男女いずれか一方の数が総数の10分の4未満としないようにする」と掲げ、全庁各課で取り組んだ結果、改善したものであります。

では、資料3 令和6年度鎌倉市男女共同参画年次報告 に戻ります。10ページから16ページに欠けて、「目標Ⅲ 安全・安心に暮らせる社会の実現」をご覧ください。

13ページ(5)「高齢者・障害者介護のための環境づくり」の最も下の枠、「在宅障害者の市独自の生活支援サービスを充実します」の障害者福祉課の取組について、日常生活用具の給付対象の拡充や18歳未満の障害福祉サービスの利用に係る自己負担額の全額助成や免除を実現し、令和6年度当初から事業を開始することができたことでA評価となっています。

次に、19ページから22ページにかけて「目標Ⅳワーク・ライフ・バランスのための環境づくり」についてです。

19ページ、「方針1 ワーク・ライフ・バランスの推進」「(1)性別の違いによらない役割分担の促進」の施策「家事・育児・介護に課する講座の開催や啓発を推進します」の取組内容の3つめ「家事・育児・介護に関する講座を開催します」の項目について、昨年は指定管理者により運営された際に講座について十分な要望を上げておらず、開催されなかったことからD評価となっていました。令和6年度は子育て講座を開始したとして評価変更となっています。

次に、評価変更ではありませんが、21ページ、「方針3 職場・就業環境の整備」「(1)妊娠・出産・育児・介護等への適切な配慮」について、取組内容の上から3つめ「男性職員の育児休暇取得率向上のため、子育てと仕事の両立支援策の周知等を行います」の項目について、男性の育児休業取得について令和5年度の75.0%から令和6年度86.1%に上昇しています。

次に、23ページ、「目標Ⅴ配偶者等に対する暴力の根絶」についてです。

「方針2 DV被害者等への相談体制の整備・充実」「(1)女性相談の充実と包括的支援」のうち中段の女性相談について、令和5年度の相談件数は603件から令和6年度の相談件数は752件となっており、約25%増加しています。増加理由は、伴走相談を意識したことなどにより同一人からの相談が増加したことなどによります。説明は以上となります。

委員長：ただいまの説明について、御意見、御質問ございませんか。

委員：24ページ方針3の一時保護について質問させてください。一時保護には結果的に至らなかったということで御相談自体はととても増えてらっしゃると思うんですけれ

ども、至らなかった理由が、例えばヒアリングしたが需要がなかったからなのか、それとも何らかのハードルを感じてしまったために辞退されたのか。個人情報もあると思いますので差し支えない範囲で教えてください。

事務局：御相談が増えている現状はあります。一時保護に至らなかった理由としては、やはりお仕事を辞められないとか、シェルターに入るハードルと言いますか、携帯電話が使えないとかそういったところで躊躇する方もいらっしゃいますし、よくよく話を聞いたら、別で支援をしてくださる方がいるとか、そちらに行った方が長期的には安全な体制が整えられるということもあります。

委員：9ページのところの、女性職員の管理職登用について、拡大のための何か対策とかとっているのでしょうか。

事務局：方針や計画など明文化されたものはない、理念としてはある。女性登用率を上げようというのはあるが、実際のやり方としてはやっぱり女性だからあげるとか男性だからあげないとか、そういうものではないので、課題感が残る。研修などの中でジェンダーギャップをないようにしていこうっていう考え方、課題感はかなりありまして実際にはその計画的に実施しているところではないのが現状です。

委員：女性管理職としての魅力みたいな発信とかいろんな自治体で行って増やそうとしているところがあるんですけどなかなかあまりうまくいってないということを知るので。

事務局：例えば子育て中とか介護をしているとか、そういう人でも管理職になれるような、そういう勤務体制がとれるようになど。例えば議会のときにはもう管理職は絶対いなきゃいけないから、介護があつて休みたいっていうのは言いづらいという環境なら、課長がいなくても次長、部長がいてそれで何とか対応できるんだから事前準備だけしっかりしとけばできるでしょ、そういう働き方にシフトしていくと管理職になりたがらない人も少なくなってきましたし、全体のサポートをしっかりして、しっかり明文化できたらいいなということで、動きは取っているところではあるんですが実際にシステムとして、仕組みとして確立しているところまではまだ至っていない現状です。

委員：今のようなことが発信されていくといいと思いました。

また、20ページのところの総合評価競争入札のところ、継続していくのは大事な視点であり、行政の方から民間も含めて発信していく意味で、広報などで契約担当課がこういうことやっていますよという発信していくと広がるのかなと思ったりはするんですけどでも。

委員：全体的に書き方として、実数で参加人数とか、延べ人数が書いてあるところもあれば、やりましたと書いてあるところもあるので、せっかく実施されたのであれば、人数とかが載っているとより具体的でわかりやすいというのが感想として持っており、そこがあるといいなと思ったことが1点と、目標I方針1「(1) 生命・人権・性の尊重」のところの、いのちの教室の話なんです、最近幼児期も積極包括的な性教育で始まりのところと言われているので、小学校中学校、学齢期以外でもそこが検討されるといいなと思っています。

また、施策のそれぞれの項目について、各課の方からこういう施策をやっています

というふうに出てくるものなんでしょうか。例えば目標Ⅲ、「方針1生活の安定と福祉の充実」の「(1)生活困窮者等への支援」のところで実際私も関わっているんですが、食料配布のような取組を生活福祉課と協働事業でやっている団体に所属をしているんですが、せっかく取り組まれているところがあまりここに載ってきていないので。あと、それに付随してケアラー支援条例など、去年から行われている取り組みみたいなものも載っているとよい。ヤングケアラーなども取り組まれているので。教育の方でヤングケアラー講座をしましたという記載があるんですが、その項目などがどこかに載っていればせっかくしっかり取り組まれているところなのであるといいなと思いました。

事務局：今回は前期推進計画に記載されている取組についての報告のため、記載されていない部分があります。後期推進計画を作る際に各課にヒアリングを行い、目標に紐づいた取組を記載するよう精査していきます。

委員長：20ページ「(2)の積極的改善措置(ポジティブアクション)の推進」の施策「働きたい女性の就労を支援します」、というところですが、ジェンダー平等プランを策定時の令和4年度のとき、母親の就労状況と就労意向というところで、パートアルバイトの方のフルタイムへの希望が30%近く、現在働いていない母親のうち働きたいという方が7割程度ということを確認したかと思います。令和6年度の取組状況として、この、育児や介護により就労ブランクがある女性を対象に職業体験を含めた全4回のセミナーを実施したとのことですね。令和5年度は12回開催されて、55名が参加しているのに対して、令和6年度は開催回数が4回となり、参加者も33名に減少している。これは全体の取り組みとしてはむしろ停滞しているような印象を受けたのですが。

事務局：担当課に確認はできていないんですけども、やはり事業評価の理由で目標人数に満たなかったとか今後継続したいが体制の見直しを行っていくという記載がありましたので、今お話いただいたことを担当課にも報告いたします。

委員長：他にございますか。

委員：5ページに施策「小・中学校での子どもの発達段階に応じた適切な性教育を推進します」の取組「性犯罪・性暴力の加害者、被害者、傍観者にならないよう生命の安全教育を実施します」について道徳教育で学習した旨書いてありますが、何をどのように学習したのかとか、その成果について書き込んでほしいと思います。実質的には2段階あって教員がちゃんと理解しないで抽象的に話をして終わってしまう場合があるので、教員がどれだけ具体的に理解したのかという項目立てと、あとは子供がそれによってどう学習したのかというところで加害者、被害者、傍観者にならないようにというのは性教育のすごく重要な話なので、ここについても具体的な話っていうのは入れ込んでほしいと思いました。もう一つは14ページの施策「介護を支援するための相談体制の充実を図ります」の取組「障害者介護を支援するための相談体制の充実を図ります」のところで、「障害者の介護」を、あえて抽出しているが、もう一つ介護じゃなくて育児というか、障害児を育てている保護者への支援というのも特出しする必要があると思います。より支援が必要という意味での抽出、項目出しをするなど、鎌倉でそこにあえて支援をいれていくと予防の観点にもなっていきますし、そ

れが大事なことかなと思います。

あと最後もう一点は、この報告書自体はすごくまとまっているし全体がわかるので、それこそ新人教育とか新任係長級の研修資料として30分でも取ってもらって全員がこれを読んでもらうとか、そうすると横串でジェンダー施策とか人権とかを学べる機会になるので自分たちの行政で何をやっていて何が足りないのかがわかるのでこれを読んでもらう職員研修の機会とかも何か設定して欲しいなと思いました。

委員：6ページ、「小・中学校にみんなのトイレを設置します」のところで、8校もみんなのトイレがないという現状で、多様な性に関してでもですけど、もうあらゆることに対して車椅子の子であったり、介助が必要な子であったり、必ず必要だと思うのでいろんなハードルがあると思うんですけど、予算の面とか資源の面でも、絶対必要なものだと思います。ぜひ、他の審議会からも意見が出ているということでお伝えください。

委員：19ページ、父子手帳の配布について、配布数が0になっていて、16ページの母子手帳と比べすごく非対称で、何かここも交付の工夫があればいいのかなと思ったのが1点。12ページの「こどもと家庭の相談室で専門の相談員がこどもや家庭に関する相談を受けます」というところなんですけど、相談件数についていつも私が体感している件数とかなり違って、何か他のところは延べ人数とか総件数で記載しているような気がするんです。ここが世帯数で取っているのか、新規数で取っているのかわからなくて、335件と減っている形で、相談員さんが4～5名確かいらして、とてもこの件数が自分の中で違和感があってたくさん相談があると思うのでここが少し気になった点です。世帯数なのか新規の件数なのか総件数なのか、総件数にしてもとても少ないと思うんです。

委員：13ページの施策「放課後の安全で健やかな居場所作りに取り組めます」の取組「放課後の安全で健やかな居場所づくりとして、全小学校で放課後かまくらっ子を実施します」の評価がAになっていますが、青少年課、16ヶ所で放課後かまくらっ子を引き続き実施していくとあってこれ評価はしたいなと思うんですけど、51%登録というのもすごいと思う反面、登録しましたというだけになって、実態はどうなのかなというのが聞きたいなと。それだけ人気があって誇れるものになっているのか、登録はしたんだけどという形なのかどうなのかな

わからなければ、次のときに実態も書いてもらえればと思います。

委員長：以上で、本日の議題の審議について、終了いたします。事務局から何かございますか。

事務局：次回は3ヶ月後、11月に第2回を開催させていただければと思います。

委員長：これもちまして「令和7年度第1回鎌倉市男女共同参画推進委員会」を終了いたします。お疲れ様でした。